

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所 グループホーム こもれびの家

日付 平成19年3月31日
 特定非営利活動法人
評価機関 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 老人保健施設介護実務経験6年、居宅
 支援事業所介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「背が高くて、カッコ良くて、ハンサムだけじゃないんだよ。やさしゅうてなあ。私ら年寄りには、やさしいんが一番じゃ、孫みたいなんじゃけど」。
 女3人寄ればなんとか・・・と言うが、昼食後のお茶碗拭きの手も、職員をからかう3人の口も休む間がない。職員の入れ替わりが少なく、すっかり馴染みになった利用者と職員の間柄はしっくりしているなあ、と感じる。「深いお付き合いをする為には、スタッフの定着が一番」という管理者に、私は大きく頷いた。「自分の家がホームの隣りなので、夜来て夜勤の職員と話し込む事もある」との話に納得もしたし、職員は仲良しで、週1回体育館を借りてバドミントンを楽しみ気分転換を図るといふ話にも膝を打った。私はかねてより「ホームの良し悪しは、職員の仲、如何」と思い続けてきたので、「見つけたぞ!」という思いで一杯になった。

また、職員は利用者の思いやペースをとても大切に無理強いせず、出来る事を出来る所まで見守っている。自分の意志で仲間の世話をしたり、広告の紙等で「メモ帳のセット」を仕事として作り続ける人、棒針編みで立派な手袋を編む人もあるが、「本人の希望を尊重する事」を第一と考え、可能な限りの努力をしてくれている。こういった努力は、利用者の満足げな笑顔につながり、職員の笑顔となる。それがまた、利用者の笑顔に伝染している。この人達の笑顔の根源は「地域の人達に立つように」とだけ言って、後はすべて職員に任せようとする代表者の度量の大きさにあるのではないだろうか。

利用者の、今の生き生きとした状態を、今後どうしたら少しでも持続できるか。これはまた、職員の頭を悩ます課題であろうが、その挑戦の過程を楽しみにしている。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

利用者の状態が重度化していく時、心身機能維持の為のプログラム作りや働きかけも大切になってくると思う。利用者の声や思いにしっかり耳を傾けながら、出来る事を一つでも多く見つけていってほしい。

家族とホームの関係について職員や家族ともよく話し合っ見てほしい。運営推進会議も良いきっかけ作りになると思う。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>「こもれびの家」は、木陰よりさす陽射しのようにゆったりとした時間の中でそれぞれの人がその人の思いで、生き甲斐のある暮らしを願って創られた。この創設時の思いはホームの建物のあちこちの空間・菜園やウッドデッキもある周辺の空間にも、いっぱい感じられる。そして、利用者としてしっかり馴染んでしまっている職員からも、</p> <p>産休、育休からも、ここに帰ってくる職員もいる。創設以来の理念や方針に職員が共感し、気持ち良く、ここで働けるからだろう。一番大切な事と思う。</p> <p>設立4年目に入り、勝負どころの5年目を迎えようとしているこのグループホームを主軸に、デイサービスセンターや居宅介護支援センターとも連携させながら、地域に根付いた福祉の拠点を築こうとしている。認知症の症状のある人も、少しの援助で近隣の人々と、ごく普通のお付き合いが出来る場や暮らしを目指している。</p> <p>また、ある利用者の看取りを経験して、職員は家族との関係性、その他多くの事を学んだ。家族や地域の人達と共働して、さらに前向きに進んで頂きたい。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>リビングルームや日向ぼっこに最適な長椅子もある廊下は、ゆったりと広い。職員はこの広さからくる問題点をきとんと取り上げ、工夫を重ねている。コの字の建物の中央は、見ただけでも楽しくなりそうなウッドデッキや菜園、物干し場になっている。さらに建物周辺の空間は広く、安全に散策も出来る。利用者にとっては活動の幅が広い。そして、職員にとっては見守りし易い生活の場となっている。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>「大きな目標を掲げてなかなか実現できないので、とりあえず、1ヶ月間ある一人に焦点を当てて、その人を皆でとことん見ていこう」としている。その人に対する日頃の気付きや発見をいっぱい集めてケアカンファレンスをする。その為には「この人がどんな生い立ちをして、ここに辿り着くまでにどんな人生を送ってきたか、改めて知る事も大切になってくるだろう。その過程で、ここでの言動に由来するものが見つかるかも知れない。その注目の人に「わしを管理するんか?」とある時、ある場所で激怒され、目を開かされた反省も含めて、G H研究大会で事例発表しようとしている。</p> <p>こういった職員の真摯な受け止め方、柔軟性、積極性が、一人ひとりの利用者の心の内側を思いやり、尊重し、プライバシーを大切にされた生活の源になっているのだろう。話を聞いていて、思わずほろりとするような頑張り拍手を送りたい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	<p>このホームで一番良い事の一つに挙げられるのが「意見交換ノート」だろう。会議ノートや申し送りノート、そして日常的に意見交換はよく行なわれているが、このノートの位置する重みは相当なものと思われる。内容的にはこのホームの根幹に関わるものが多く、よく意見交換され、皆読むので職員が思いを共有出来ている。このノートを読み進むうち、このホームがどれだけ日々利用者の事を考え、より良いサービスを提供しようと考えているか理解出来ると思えた。この実状のほんの一端でも家族に伝え、困った事も共に考えていこうとする姿勢を見せた方が良いのではないだろうかと感じた。</p>		